

1

文教施設応急危険度判定調査表(鉄骨造)

集計欄は数字で記入

EF-S

整理番号 調査日時 月 日 午前・午後 時 調査回数 1 回目

調査者 氏名 氏名

立会者 氏名 氏名

整理番号

判定順位番号

施設台帳等整理番号

3	2
4	
地上	
地下	
6.1	
6.2	
7	

建築物概要

1 施設名称 1.1 建築物名称 体育館棟

2 施設所在地 (TEL) 2.1 施設台帳整理番号 1

3 建築物用途 2.体育館 判定順位番号

4 構造種別

5 階数 地上 階 地下 階

6 建築物規模 6.1 建築面積 m² 6.2 延床面積 m²

7 建築年(西暦) 年

調査 調査方法:(1.外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (<input type="text"/>)

調査方法

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

		Aランク	Bランク	Cランク
隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険		1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険有り
不同沈下による建築物全体の傾斜		1. 1/300以下	2. 1/300~1/100	3. 1/100超
建築物全体又は一部の傾斜				
傾斜を生じた階の上の階数が1階以下の場合		1. 1/100以下	2. 1/100~1/30	3. 1/30超
傾斜を生じた階の上の階数が2階以上の場合		1. 1/200以下	2. 1/200~1/50	3. 1/50超
鉄骨造部分の被害				
被害最大の階	部材の座屈の有無	1. 無し	2. 局部座屈あり	3. 全体座屈あるいは著しい局部座屈
	筋違の破断率	1. 20%以下	2. 20%~50%	3. 50%超
	柱梁接合部及び継手の破壊	1. 無し	2. 一部破断あるいは亀裂	3. 20%以上の破断
	柱脚の破損	1. 無し	2. 部分的	3. 著しい
階	腐食の有無	1. ほとんど無し	2. 各所に著しい錆	3. 孔食が各所に見られる
	RC造部分の被害(純鉄骨造の場合は ~ は省略する。またRC壁構造の場合は柱本数を壁の厚さに読み替える。)			
建物全体	損傷度 以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. 有り	
被害最大の階	損傷度 の柱本数_本 ÷ 調査柱本数_本(調査率_%)	1. 1%以下	2. 1~10%以下	3. 10%超
	損傷度 の柱本数_本 ÷ 調査柱本数_本(調査率_%)	1. 10%以下	2. 10~20%以下	3. 20%超
危険度の判定		1. 調査済み 全部Aランクの場合(要内観調査)	2. 要注意 Bランクが3以内の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

1	

鉄骨造部分

鉄骨造被害最大の階 階

RC造部分

RC造被害最大の階 階

判定

判定

総合判定

(参考)

設備の被害状況

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度 (~ は内観調査時に実施する)

		Aランク	Bランク	Cランク
屋根・パラペット等		1.ほとんど無被害	2.わずかなずれ	3.著しいずれ、一部落下
窓ガラス・窓枠		1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
外装材		1.目地の亀裂程度	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
看板・機器類		1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.転倒、落下の危険有り
屋外階段・庇等		1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.明瞭な傾斜
天井材・照明器具・吊り物・屋根面ブレース等		1.ほとんど無被害	2.部分的なずれ、座屈	3.落下の危険有り、一部落下
内装材・間仕切り・屋根鉄骨定着部・床陥没または転倒		1.ほとんど無被害	2.目地ずれ、わずかな剥離、不陸	3.顕著なひび割れ、剥離、顕著なだわつき・一部の没落転倒
本棚・実験棚・屋内器具等		1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.収容物の破損・飛散や転倒の危険有り
その他 (<input type="text"/>)		1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定		1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

総合判定(調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する)

1. 調査済(要内観調査) 2. 要注意 3. 危険

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

(参考)設備の被災状況(総合判定で1.調査済と判定された場合でも、避難所としての使用が不適当な場合があるので、下記の設備被災状況を記入する。被災の有無が確認できない場合は 未確認とする。)

電気	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
給排水	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
ガス	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
通信	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
便所	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
空調(暖房)	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能

